

# 長野県果樹試験場同窓会だより

No.32

長野県果樹試験場同窓会発行

長野県農業大学校農学部果樹実科・研究科事務局内

〒382-0072 須坂市大字小河原 492 TEL 026-246-2415 FAX 026-251-2357

## 同窓会員の皆様へ

昭和46年度卒

会長 松本 和実



7月31日の同窓会総会に於いて、会長に選任されました。副会長に中野市の藤沢正実さん、長野市の柳沢司さんが選任されています。二年間よろしくお願い致します。

能登半島の大地震で始まった令和6年ですが、昨年につき高温、乾燥から9月の大雨と私達果樹農家を大変苦しめています。

地球規模の温暖化は、さまざまな形で各地に甚大な自然災害をもたらし、今後も続いていくとなると、私達農家はどのような対策を立てて農業を持続していくのか、真剣に考えなくてはならない時が来ています。個々の経営はもとより、仲間作り、産地作りがより一層大切な時期にきていると思います。

長野県果樹試験場は、近年、目覚ましい新品種の発表が続いており、私も大変誇りに感じている所です。

このところコロナ渦で、途絶えていた視察の受け入れも始められています。

昔から「品種は経営を左右する」技術も追いつかないと言われていています。今は国の育成品種のシャインマスカットかもしれませんが、その前はシナノスイートであったように時々の救世主が出て来ています。クイーンルージュも三姉妹として知名度を上げています。これからも農家が望む新品種が発表されることを望みます。

現在、実科生・研究生はそろそろ、まとめの時期に入るかと思います。春に入学をされて、いろいろな人と出会い、学び、自分の将来が見えて来た頃かもしれません。もうひと頑張りをして卒業してほしいと思います。

最後に果樹試験場が75周年を過ぎて、80年に近づいています。これからも敷居が低く私達果樹栽培者の指針であり続け、将来を担う実科生・研究生の基礎教育をしっかりとお願い致します。

同窓会員の皆様におかれましても健康で1日も長く果樹栽培に、あるいは指導に活躍されることを願い、あいさつとさせていただきます。



## 「たかが色、されど色！」

果樹試験場長 宮本 賢二

令和6年4月より、果樹試験場長を務めさせていただいております。よろしくお願い申し上げます。同窓会の皆様には、日頃より果樹試験場並びに農業大学校果樹実科研究科に様々なご支援、ご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

現在、果樹実科研究科には、研究科生6名、実科生9名が在籍し、未来の果樹産業を支えるべく、日夜勉学に、実習に励んでおります。そして、ここを巣立った後、それぞれの地域において、産地を牽引する農業人に成長することを願うとともに、彼らに対する同窓会の皆さまの末永いお力添えをいただければと存じます。

色、color。人間は、様々な物体が反射する特定の波長を色として認識しています。果物の場合は果皮色。果実の外皮色で、古くから果実品質の構成要素として特に重要視されています。そして、対象とする果実を最初に判断する最もポピュラーで簡潔な手法が果皮色ですが、果樹類生産では、この果皮色に悩まされることが多くなりました。

「ふじ」、「スナノスイート」、「巨峰」、「ナガノパープル」、「クイーンスルージュ®」等。赤色色素を生合成して果皮の色を発現させているこれらの品種は、気候変動中の気温上昇の影響を顕著に受け、本来の果皮色を維持できなくなっています。また、果実の果皮色と熟度の進行にズレが生じており、この現象は「シナノゴールド」のような赤色ではない品種においても確認されています。そのため、果皮色という最もポピュラーな果実選定の手法が通じなくなっています。

植物は、光合成により体勢を維持していますが、気温や光等の生育環境の変化に伴い、その働きは変化しています。そして、その働きは、気温の低下等により生産と分配のバランスが崩れ、その乱れから果実を守るために特定の色素が発現し果実が着色します。しかし、気温が高く、光合成による生産とその分配が順調に行われている状態では、ある意味、体内における抵抗勢力である色素を生合成する必要がないため、結果的に着色しにくくなっていると考えられています。

果物の評価は、最終的には「食べて美味しい！」ところにあるはずですが、消費者は色や大きさ等から各々が求める味等を連想し選んでいます。恐らく、この選び方はこの先も変わることはないのでしょうか。「色が薄くても美味しいよ！」とか「見た目は悪いけれど、どれを選んでも美味しいよ！」という時代になってしまうのかもしれないことを想定しつつも、やはり、これからも消費者には今までのように選ぶ楽しさを感じて欲しいところです。

温暖化を始めとする気候変動は、誰も経験したことがない世界に地球環境が突入していることを意味しています。言わば、ロードモデルがない、どうしたらよいのか答えがわからない状況です。唯一、温暖化効果ガスの排出削減という答えが分かっていますが、地球規模での対応は困難であり、温暖化の進行を止めることは恐らく不可能でしょう。ならば、どのような環境になっても耐えうる対応策を構築するのみです。どんなに暑い夏秋期を経ても、色付きが良いりんごやぶどうを生産するにはどうすべきか？この実にシンプルな課題を含めた諸課題に対し、失敗という答えを出しながらも、未来に成功という答えを手にするまで、日々、研究に邁進する所存でございます。

引き続き、果樹実科研究科並びに果樹試験場へのご理解、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

# 同窓会だより発刊によせて

令和6年度父母の会会長  
宮崎政彦

私は上伊那農業高校、南信農業大学校実科を卒業し、現在中川村でリンゴ、梨の果樹専業農家として日々農作業を楽しんでいます。

就農したころの我が家は基盤整備事業により果樹の団地化が図られ稲作からリンゴへと経営方針が変わりました。リンゴは矮化栽培が普及し始めた頃で丸葉台にM26の中間台が主流でした。剪定技術も未熟だった為「ふじ」は隔年結果が当たり前で、樹も巨大化してしまいました。JM台を使った時期もありましたが、今はM9自根を使った低樹高栽培を行っています。高密度栽培は早期成園化、省力化、果実品質もよく素晴らしい技術だと思います。

令和6年春から、果樹研究科を卒業した青年が、里親研修制度を利用して、我が家に研修に来てくれています。2年間の学校生活の中で、基礎的な技術習得がされていて頼もしさを感じます。

シナノリップ、秋映、シナノスイート、シナノホッペ、ふじを軸にリンゴ栽培を継承していきたいと思っています。

就農して30数年経ち、栽培技術も、品種も随分変わりました。

果樹栽培は結果が出るまで時間がかかります。

最先端の果樹試験場で学ぶ機会を得られた果樹実科、研究科生の皆さんには基本的な技術習得はもちろんの事、人との繋がりを大切にして欲しいと思います。

試験場の先生方、同窓会、親和会の皆様、末永くご指導、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 果樹産地視察研修報告-1

### 東信・山梨県方面果樹産地視察

果樹実科 中村大知



#### 1. 飯塚果樹園（長野県上田市）

ぶどう栽培に向かない田を栽培地にし、土壌改善に取り組んできた。

暗渠を行い化学肥料の使用を止めての土壌改良は、並々ならない苦労が想像に難くない。有機物や微生物を利用しての土壌改良に努め、化学肥料による土中の生態系が崩れる事を防いでいる。特別栽培農産物の認定を取得している事から、農薬の使用量を県基準の半分以上削減されている。これによって薬散回数が減り、農薬の費用、人件費、仕事の手間を減らす事に成功している。

また、消費者は農薬の使用に敏感なため、マーケティングをする上で重要な戦略の一つとなる。

ぶどうの樹にストレスを与えない土作りと、環境整備の大切さを学べた。

## 2. 宮崎林檎農園（長野県小諸市）

いち早くわい化栽培を取り入れ、省力的な栽培・合理的に楽なりんご作りを目指しておられた。

M9 は湿害に弱いので暗渠を行い、地質改善に努め静かな樹勢になるようにし、葉が小さくなるようにしていた。日光が入るので葉摘みをする必要がなくなる為だ。環境管理を大切にし、ダニの発生をコントロールする事で 1 種類のダニだけが出るようにし、そのダニだけに注視できる環境を作っていた。

色や形にこだわらず、味の品質が保たれていれば売り先は確保できる。

省力的な栽培と環境管理の大切さを学んだ。

## 3. ㈱マンズワイン小諸ワイナリー（長野県小諸市）

キッコーマンを親会社に持つマンズワイン社が 1973 年開設したワイナリー。

日照条件、乾燥、寒暖の差などを鑑みた結果、小諸の地にワイナリーを建設。

シャルドネの古樹や 32 種類が植えられた品種園が見学できた。主に欧州系ぶどう品種を育て、プレミアムワイン「ソラリス」もこの地で生産している。

3 2 品種の他、隣接する畑には 1 6 品種が日本庭園「万酔園」の中には善光寺ぶどう（龍眼）が植えられている。

ヨーロッパに比べ雨の多い日本のため、欧州品種を雨から守るためのレインカット栽培法を考案した。一列に並んだワインぶどうの上に半円形の枠を作り、梅雨時期など雨の多い時期にシートを被せぶどうを雨から守っていた。最近では短梢剪定のシャインマスカット等で見られる雨よけに使われている。

その国の気候にあったワインぶどう作りに真摯に取り組んでいる姿に感心した。因みに、試飲したワインは普段ワインを飲み慣れていない私にも飲みやすく美味しかったです。しかし、別枠で飲んだ龍眼ブランデーは格別で、ワインとは別に蒸留酒にも力を入れて欲しいと個人的に願う思いです。



## 4. 山梨県果樹試験場（山梨県山梨市）

須坂の試験場で見ると事のない傾斜地のぶどう棚や、ももの Y 字形仕立てを見る事が出来た。傾斜地のぶどう棚は近くで見ると事はないが、地面には段があり、SS が通れるよう工夫されているようだ。Y 字形仕立ては、りんごのわい化栽培に近い考え方で、密植による管理作業での効率化、成園化の短縮を目的としている。

Y 字形の棚を建てるため初期費用が必要。開心自然系と比べ収量も上がるようだ。仕立てによって作業の効率化、収量増に繋がると勉強になった。

## 5. 丸善農園（山梨県笛吹市）

儲かる農業を基本理念にしている。難しい品種ではなく、始めるなら人気のある味の良い品種を作るのが良い。茶色い土から黒い土にする土作りが大変だったそうだ。

園主の鈴木さんのご厚意で最新のももの集果場、ぶどう園の方のお話もうかがえた。集果場では機械化が進み、効率的に選果され箱詰めまでがとてもスムーズであった。ぶ



どう園では化学肥料を一切使わず堆肥のみで運営されているお話を聞いた。ここでも土作りの大切さと環境整備の大切さを実感出来た。

今回の視察で県内外のどの農家さんも土作りの大切さと環境整備の大切さを語って頂きました。大変勉強になり、有難うございました。



## 果樹産地視察研修報告-2

### 東北方面果樹産地視察研修

果樹研究科 塩 崎 歩

#### 1. ジャパンアップル株式会社（青森県青森市）

2020年に設立、栽培面積は44ha程で社員13人、パート30人で作業をしている。高密度栽培の木は6年後に収穫のピークをむかえ、10年ぐらいで植え替える。育成品種はほとんど晩成品種でふじが6割、ゴールド3割、トキ、王林、名月を栽培している。

雪が多く降るため、トレリスの一番下の番線は1mのところを1.5mにして切れないようにしている。

販売先は、ファーマインドと日本農業で半分ずつ販売している。

経営の規模が違いすぎて、よくわからなかったけど、色々な所を工夫していると思った。



#### 2. 弘果弘前中央青果株式会社

青森県ではスイートは高値で取引されている。多くのものが競売に出され、競売だからこそすべてが競り落とされる、品物の単価が上がる。

新規就農者を増やすために、経営人材育成独立プロジェクトがあり、2年間の研修をつみ、3年目以降に独立する仕組みになっている。このプロジェクトを全国で実施すれば、近年減り続けている農業者を少しは増やせるのかと思った。

#### 3. もりやま園株式会社

畑は10.5haあり、17人の社員で管理している。売り上げの半分がりんご、もう半分が加工品となっている。

スマート農業にも取り組み、アプリを作りどこの作業を終わらせたか分かるようにする、自動草刈り機などを取り入れて栽培管理に力を入れ、売り上げが2年間で3倍になった。このことから、生産性などを上げて作業性を上げないと人手もかかるし、お金がかかってしまうため、スマート農業に取り組むことが大切だと思った。

#### 4. 株式会社 釈迦のりんご園

家族経営から法人に切り替え、正社員 3 人、パート 3 人、ダブルワーク 5 人で作業している。園主は考え方がすごく、栽培のことから大幅に変えて、良い果実を作るには良い花芽が作ることが大切と、周りとは少し違う観点でりんごの栽培の考え方を持っていた。

肥料の与える時期を変える、花芽の時は草刈りをしない、延長枝の先端を切らない、徒長枝を切らないなど、とてもためになる話を聞いてとても良い体験になった。

#### 5. 青森県産業技術センターりんご研究所

ここでは、国光の初めての草生栽培がされた樹齢 123 年の木や、Y 字栽培、高密植栽培で雪の影響がどう受けるか、射光シートの試験をやっていた。

飯山で実施するにはあまり、参考になることがすくなかったけれど、温暖化が進む現段階でできることが少しでも参考になったので、これから取り入れたいと思った。

#### 6. 果樹茶業研究部門盛岡研究拠点

ここでは、ふじの原木とカラムナー性の樹を見てきました。カラムナー性の樹は近年問題となっている、着色が良くなったり高密植よりも収穫量が多いなどいいこともあるが、日に当たる分、日焼けになるのではないのかと考えました。

ふじの原木はととても大きく、実をつけてしまうと枯れてしまうほどの樹齢で台木についていないため根からすべてふじで、普通のふじと味が違うと聞き台木の必要性が分かった。品種改良や栽培のやり方を見学できてとても良い体験ができて、雪が多く降る飯山でも試したいと思った。

#### 7. 宮城県農業・園芸総合研究所

ここでは、りんごのジョイント栽培を中心的に見てきました。高さ 80cm 樹幹が 1m の V 字型の樹形をしている。つなげることで樹勢をそろえることができる。

雪も降るので、樹高を 2m くらいにして、側枝を下に誘引することで折れるのを抑制する栽培の仕方。ジョイント栽培は年の違うものを使うと、接ぎにくくなってしまう。

他には、コーヒーのカスを樹の周りにまくと一年生雑草が生えなくなり、樹元 30cm はヒコバエが生えにくくなる。コーヒーカスは、雑草などを抑制できるが品質などには影響はない。

ジョイント栽培やコーヒーのカスを使う栽培を初めて見て、「すごい」の一言でした。ジョイント栽培は雪の降る飯山でも栽培できそうなので将来的には試してみたいと思った。

#### 8. 志藤誠一郎氏農園

栽培方法は、新半わい化朝日ロンバス栽培で、開心形わい化樹とロンバス方式を組み合わせた栽培法。ロンバス方式での補強で雪下ろしが必要なくなった。

個人の意見としては車枝にしているため、2 本主枝の片方が太くなり形が悪くなるし、りんごの品種が変わると思うため、あまりいい栽培法ではないと個人的に思った。

## 9. 山形県農業総合研究センター園芸農業研究所

畑は12.7haあり樹齢が60年近いものもある。研究内容はバイオ育種、果樹部、野菜花き部、園芸環境部がある。主に見たのがりんごとサクランボを見てきた。

りんごは、普通樹とジョイント栽培を見てきた。普通樹は特殊な形をしていて、収量を多くする樹形をしていた。主枝が下がっていて乗用草刈り機でくびを吊りそうな高さだった。

りんごの栽培などは少し参考にはならなかったけれど、サクランボなどの栽培方法を見られるなど貴重な事が出来て良かった。

## 10. フルーツパーク仙台あらはま

栽培面積は20haで、海が近いので高温障害がない。栽培方法はY字樹形で、平棚にくらべて紐を結ぶ作業がなく52°の角度になっていて2.5mの側枝で栽培すると収量が多くなる。その代わり花が多くついて大変。玉が多くなりすぎるため、小さくするのが大変。剪定は簡単で一芽ですごく簡単。50~1mあけないと光が入らない。南北に主枝をいれて、まんべんなく光を入れている。冠水は一日に、70tで1つの畑に1時間程度でぎりぎり。

ここも規模が大きく場所も平坦な場所であまり、参考にはならなかったがY字栽培について学べたので良かった。

### 会員コラム1



## 家業の跡取り息子として 生を受け50年。

平成6年度卒  
竹森洋輔

最愛の妻と二人の子宝を授かり、愛媛の地で果物づくりにいそしみ元気に毎日、活動中です。皆様、長らくご無沙汰しております。

臨職を含め、果樹試験場に在籍した3ヶ年の経験、学びを礎に果樹経営を行っておりますが、地球規模で加速する温暖化に加え、急変する気象条件は現場での順応を早急に強いられる状況に直面しています。

四国地方は今年、記録的な猛暑に加え、短時間でのゲリラ豪雨など、圃場は乾湿の急激な変化を繰り返し、様々な作物の生育過程に大きな影響、また被害を及ぼした結果となりました。困惑する農家の現状は各地から報道されるようになり、モノづくりの根底が脅かされる時代が来たものと認識させられます。

私は就農当時からリンゴとブドウの複合栽培でお客様へ果実を提供して参りましたが、現在はリンゴの栽培を断念し、ブドウのみを生産する観光農園を継承しています。

長らく続いたコロナ禍からも徐々に脱却・回復の兆しが見え始め、来客の機会を再び頂ける様になって参りました。

この 30 年余り、ぶどう栽培は有核から無核へ大きな転換が実証され、更には皮ごと食べられる品種がマーケットをけん引する時代が訪れました。これまでの栽培技術も難しさを極め、基本作業に加え、有効的な農業資材をどの場面で活用して行くか、まだまだ日々勉強と感じています。

昨年 9 月には、果樹実科・研究科の学生の皆さんが遠路、視察に立ち寄ってくれました。

学生さんの輝きを放つまなざしは、当時の自身を懐かしく振り返る時間でもあり、同時に果樹試験場で学んだ誇りを改めて思う機会になりました。どんな状況下でも「負けてたまるか！」このフレーズをエールに添えて、共に頑張ってみましょう。

## 会員コラム 2

### 今後どうするか

平成 26 年度卒

伊藤 裕 哉(旧姓 奥村)



果樹試験場を卒業して 10 年が経った。忙しい日々を送っていた中で、今回このコラムの寄稿依頼を頂きこれまでを振り返る機会となった。

高校を卒業して試験場に入り、実科・研究科とお世話になった。入学当初は、農業の知識や技術がほぼ無かったが、この 2 年間のおかげで今の自分があると思う。なにより、在学中での人との出会いが自分にとっての大きな財産となった。卒業後も同期や研究員の方々とは連絡を取り合ったり、会ってお酒を酌み交わしたりした。

卒業後すぐに 1 年間オーストラリアへ単身渡った。元々海外への憧れもあったのと、在学中にリンゴの品種間における特徴の研究をしていたときに、海外由来の品種も取り扱っていたという事もあり、世界ではどんなリンゴが栽培されているのだろう？と一層好奇心をくすぐられた為旅に出た。現地でお世話になった農場で働かせていただいて感じたことは、まずその規模感に圧倒された。日本国内で一生産者が経営する圃場の数十倍の面積の圃場が一箇所に集約されていて、生産量や労働者の数、使われている農機具も桁違いだった。日本で同じような事をするのは土地も限られている中で厳しいと思うが、自分の中で視野が大きく広がった。

帰国後はすぐに就農し、家族とは別で新たに 1 ha の土地を借りてりんご作りを始めた。最初は何をするにも思ったようには行かず、3 年間の経験とのギャップに悩まされた。営農している中でも多くの人との出会いがあった。困った事があれば相談したり、一緒に地域を盛り上げて行く先輩や JA の人達など様々だ。そこでのご縁もあり、JA の青年部に加入することになった。青年部での活動は、イベント出店や地域ブランドの創出などとても充実していた。活動していて気付いたことは、誰かが困っていたらみんなが解決する、地域の課題はみんなの課題という気持ちでやっていることだった。個人で



事業をやっている以上責任は自分自身に降りかかるが、決して一人で農業をしているのではないと実感し、この地域で農業ができて幸せだと思った。

今年度は、JA 長野県青年部協議会の会長を務めさせていただき、県内盟友の代表として活動させてもらっている。現在、農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況ではあるが、まだまだ農業には多くの可能性を秘めていると思う。自分もこの地域の一員として、より一層営農に励んでいきたい。

## 果樹試験場トピックス



### いんごM.9台木樹の 凍害枯死と土壌物理性

果樹試験場栽培部 研究員 土田 河

本県では、省力化、早期多収を目的として、M. 9 台木を用いたりんごのわい化栽培を進めています。M. 9 台木は湿害に弱いため、土壌水分が多い条件では樹体が衰弱しやすく、時として凍害による枯死が課題になっています。近年、M. 9 を台木にした「シナノリップ」で凍害が多く発生していることから、令和 4～5 年に長野市で調査した結果を紹介します。

#### 1 「シナノリップ」/M. 9 台木樹の凍害について

地際部～接ぎ木部含む地上 60cm 程度の部位に障害が多く確認されました（図 1）。主幹部における形成層の通水が阻害され、不発芽や発育遅延、程度の激しい場合は枯死に至っています。



図1 「シナノリップ」/M.9台木樹の凍害

## 2 凍害枯死と土壌物理性（固相率）の関係

土壌はさまざまな大きさの有機物や岩石由来の粒子、それらの隙間に存在する水と空気からなり、固相、液相、気相の3相に分けられています（図2）。液相・気相は相補的な関係にあり、降雨があれば、液相が増え、逆に乾けば気相が増える。しかしながら土壌中の粒子量は基本的に不変であるため、固相率は基本的に変わらない性質があります。

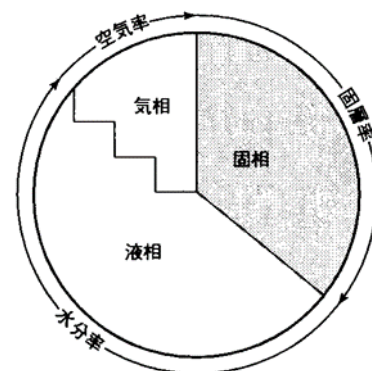


図2 土壌の三層割合イメージ  
(根の事典編集委員会 編:根の事典、教文堂、1998)

図3に「シナノリップ」/M.9台木樹の枯死率と固相率の関係を示しました。M.9台木樹（●）の枯死率は固相率が45%を超える園地で多く、一方でマルバカイドウ台木樹

（□）は固相率が高くても、枯死はみられませんでした（図3）。さらに、固相率が45～50%の園地では側枝の先端新梢

長が短く、樹勢が弱い樹ほど枯死率が高かったです（図省略）。樹勢が弱いと樹体の貯蔵養分が不足し、耐凍性が低下すると考えられています。以上のことから、固相率が高い土壌条件で樹勢が弱いと凍害を受けやすいことが明らかとなりました。

## 3 凍害による衰弱・枯死を防止する上で、注意すること。

### （1）栽培様式（台木）の選定と栽培管理

固相率が高い園地（固相率50%以上）では、樹体や根域がコンパクトで樹勢が弱まりやすいM.9台木は適さないことを認識しなければなりません。また比較的固相率が高い園地（固相率45～50%）では、樹勢を維持する栽培管理（着果管理や施肥管理）が重要になります。固相率が高めの園地では、ワラ巻き等の物理的な昇温防止対策も併用する必要があります。

なお、固相率は乾土重から推定することができます。詳しくは近隣の農業農村支援センターに相談して欲しいです。

### （2）排水対策の実施

固相率が高い土壌は一般的に排水性が不良で、これが凍害の発生に直結します。定植後の園地では、大がかりな土壌改良は難しいですが、明きょや暗きょ等の対策を適正に実施し、排水だけでなく周囲からの水（降雨や融雪水）の流入防止対策も重要です。

近年、生育期間中の高温に起因する樹体衰弱、生育前進化と“寒の戻り”により、凍害の発生が増加しています。気象条件の変化に対応するため、地上部だけでなく、土壌や根にも目を向けたいです。

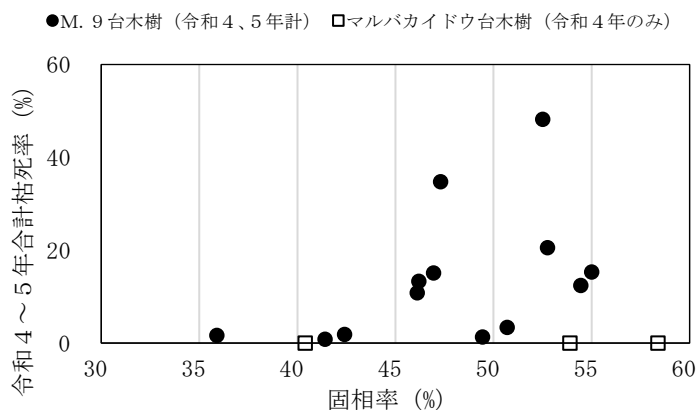


図3 固相率と「シナノリップ」/M.9台木樹の凍害枯死率  
(2022～2023年、果樹試験場)

## 令和6年度同窓会総会報告

去る 7 月 31 日、農業技術館講堂において、「令和 6 年度果樹試験場同窓会総会」が開催されました。

令和 5 年度事業報告・一般および基金会計収支決算報告、令和 6 年度事業計画・一般および基金会計予算(案)の審議の決算報告が行われ、修正の提案等はなく、賛成多数で原案のまま承認・可決されました。

さらに、役員の変更が執り行われ新役員が決まりました。2 年間の任を担うことで承認されました。

役員改選（敬称略）

同窓会長 松本和実（高山村）

副会長 藤沢正実（中野市）、柳沢司（長野市）

（文責 農大果樹実科・研究科事務局）

### 令和7年度学生募集

令和 7 年度一般入学試験後期日程は、募集期間が 1 月 8 ～ 22 日、入学試験が 2 月 6 日に行われます。詳細については事務局にお問い合わせ下さい。なお、推薦入学試験及び一般入学試験前期日程は既に終了しました。

●受験資格

果樹実科：高校を卒業、若しくは、18 才以上で高校卒業と同等以上の学力があると認められる者。

果樹研究科：果樹実科又は短大を卒業、若しくはそれと同等以上の学力があると認められる者。

●提出書類 入学願書 最終学校の調査書等

●受験料 2,200 円(長野県収入証紙)

●提出先・問い合わせ先

長野県農業大学校果樹実科・研究科

〒382-0072 長野県須坂市小河原 492

TEL 026-246-2415

FAX 026-251-2357

## 令和 6・7 年度 同窓会役員体制

どうぞよろしくお願ひ致します。

会 長 松 本 和 実 (高山村)  
 副会長 藤 沢 正 実 (中野市) ・ 柳 沢 司 (長野市)  
 監 事 島 田 智 仁 (小布施町) ・ 田 中 俊 行 (長野市)

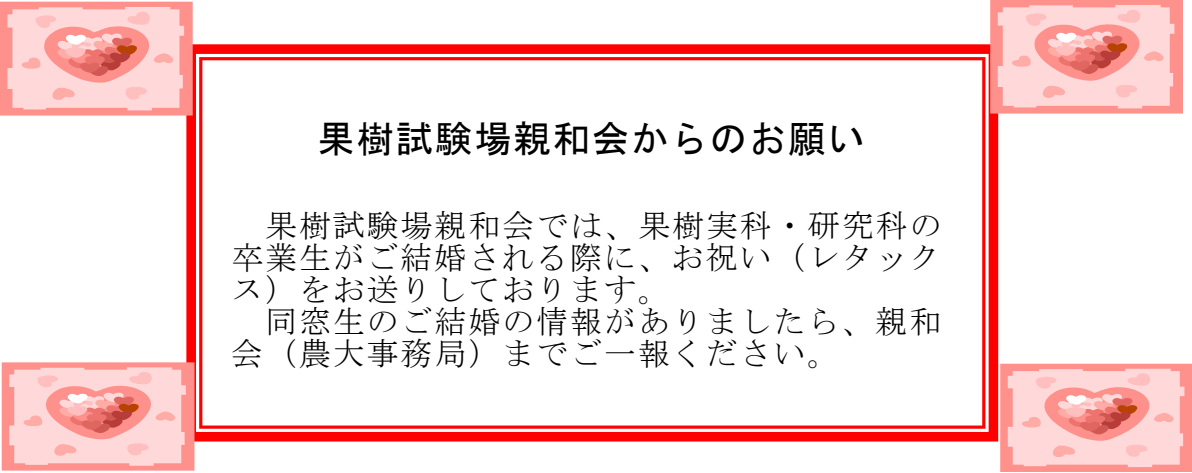
### 令和 6 年度果樹試験場職員体制

場長	宮 本 賢 二	場総括
栽培部長	江 口 直 樹	部総括
主幹	馬 場 孝 幸	ほ場運営
研究員	桐 崎 力	ブドウ
研究員	土 田 河	リンゴ
研究員	森 幸 穂	核果類
研究員	船 橋 徹 郎	核果類
技師	田 邊 友 樹	ブドウ
臨任	吉 村 佐 佳	
臨任	大 坪 直 也	
育種部長	峯 村 万 貴	部総括
専門研究員	前 島 勤	リンゴ
研究員	平 賀 正 浩	ブドウ
研究員	市 川 悦 子	ブドウ
研究員	上 條 和 明	核果類
研究員	山 口 維 尚	リンゴ
技師	土 屋 和 希	核果類
育任	塩野谷 健 治	
環境部長	近 藤 賢 一	部総括
研究員	石 井 伸 洋	虫害
研究員	簗 島 萌 子	虫害
技師	野 澤 堯 史	病害
技師	岩 岡 広 樹	虫害
技師	島 袋 稚 子	病害
臨任	丸 山 美 穂	

### 令和 6 年度農大果樹実科・研究科職員体制

特別教授 赤 松 紀久実 教務担当  
 特別教授 増 田 千恵子 庶務担当





### 果樹試験場親和会からのお願い

果樹試験場親和会では、果樹実科・研究科の卒業生がご結婚される際に、お祝い（レタックス）をお送りしております。  
同窓生のご結婚の情報がありましたら、親和会（農大事務局）までご一報ください。